

ナーシングサイエンスカフェ 2025 開催報告

日本看護学教育学会 広報・渉外・社会貢献委員会

2025 年 8 月 30 日（土）、第 35 回学術集会の 2 日目に会場である、日本赤十字北海道看護大学講義室にて、対面開催と Zoom によるオンラインのハイブリッドで開催され、約 70 名の方に参加いただきました。

2025 年度のナーシングカフェは、「看護を学ぶ体験を経て進学する-日本赤十字北海道看護大学における高大連携プロジェクト」と題し、はじめに開催地である日本赤十字北海道看護大学が推進している高大連携プロジェクトの概要（高校生が参加できる授業科目の紹介や入学前学習支援等）について日本赤十字北海道看護大学の山本学部長からお話いただきました。続いて、高大連携プロジェクトを体験し入学された日本赤十字北海道大学の 2 年生 3 名が、授業に参加した体験は大学で看護学を学ぶ準備性を高め、在学生との交流によって受験への動機をさらに高めたことが紹介されました。その後、フロアにおいていただいたプロジェクトの協定校の後藤校長より高校側における効果や展望といった所管を発言いただきました。また、高校生 2 名からは高大連携プロジェクトに参加し、高校での学習が大学での学びにつながることを実感し、より一層高校での学習に取り組めるなどの感想を紹介いただき、今後の地域における高大連携の推進について対話が弾みました。

参加した方の感想の抜粋

- 参加した高校生の感想
 - 高大連携プロジェクトで高校生の進路の幅を広げるとともに、大学生のモチベーションの向上、看護師の人材確保にもなり、良い活動だと感じました。
- 高校教員の感想
 - 高大連携に参加した感想などを大学生、高校生から聞けてよかったです。
 - 高大連携の具体的取り組みやメリットが大変よくわかりました。
- 学会員の感想
 - 看護師のなり手が少なくなっているなか、素晴らしい取り組みでした。
 - 実際に高校、大学生の声を聞くことができて良かったです。
 - 本校でも取り入れたいと思いました。ありがとうございます。
 - 高大連携は、早期からのキャリア開発支援としてもとても重要な取り組みだと思いました。
- 非学会員の感想
 - 高大連携の具体的な内容を知ることができ、参考になります。オープンキャンパスや高校訪問などの広報活動を日々行っていますが、その目的を改めて考えまし

た。未来の看護を一緒に考える仲間をどう増やしていくのかヒントをいただけたように思います。

- 地域に根ざした取り組みでとても良いと思いました。



Figure 1 大学生の発表の様子



Figure2 高校生からの発言の様子



Figure 3 高等学校への感謝状を理事長より贈呈